

□市民がつくる市民のための避難所マップ

宝塚ボランティアネットワーク 代表 高原 宏 子

はじめに

私たちが住む宝塚市は兵庫県の南東部に位置し人口21万人を有する地方都市で宝塚歌劇で全国に知られる緑豊かな環境に恵まれたまちです。そのまちが1995年1月17日未明におきた阪神淡路大震災で大きな被害を受けました。ライフラインを断たれた中、必要な情報を入手することがとても困難な状況になりました。いかに混乱時であったとしても、震災の状況を伝える報道ばかりが目立ち、被災者にむけての必要な情報があまりにも少なく偏りを強く感じました。

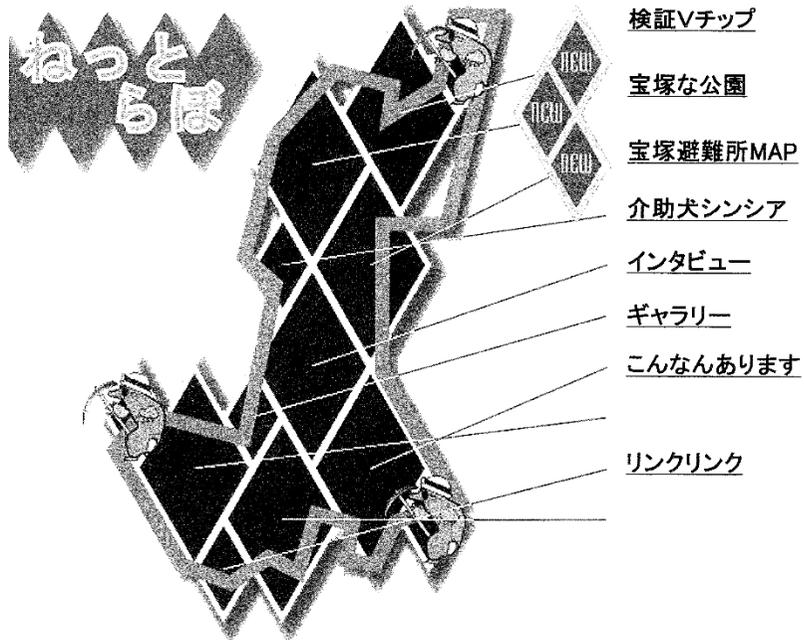
また、マスコミで報道されるのは神戸市などの情報が中心で同じ激震地である宝塚市の情報が少ないとも感じました。この体験から市民自らが必要な情報のやりとりができるコンピュータネットの活用を考えました。当時はまだパソコンは限られた場所であり、操作できる人も少なくインターネット環境に至っては未知数のものがありました。パソコン操作やインターネットの知識や経験も乏しい中で、同じ思いの仲間を増やすための講座を開催することになりました。場所、器材、講師探しには市役所、ボラ

ンティア活動センター、大学などへ足繁く通い1995年12月から翌年の3月にかけて、ワープロを使ったパソコン通信講座が実現しました。そして修了生や協力者を中心に宝塚情報ボランティアネットワークというグループを立ちあげました。当初10名からスタートしたグループも現在では20数名になりました。

その後、会員間で研修をかさね、1997年4月にねっとらぼと名づけたホームページを開設するまでになりました。市民の立場に立って地域にこだわり宝塚発の情報を発信しています。一方、一人でも多くの市民がパソコンを使いこなせるようにとインターネットのデモ・入門等の講座も開催してきました。そして懸案であった防災情報の一つとして宝塚市避難所マップの作成にいよいよ取り組むことになりました。

宝塚市避難所MAPができるまで

市民にとって必要な情報は何かと考え、宝塚市内地図の入った避難所マップを作ろうということになりました。それはいざという時には災害情報を載せ、市民への情報



私に何ができるのか 自分にできること みつけよう

宝塚情報ボランティアネットワークはこんなことをしています。

私たちはあの大地震の折り、情報の少なさや偏りを体験し、あらためて情報の大切さを痛感しました。

その経験から、双方向に情報のやりとりができるコンピューターネットの活用を少しでも生活の中にとりいれ、そして災害時にも情報ボランティアとして行動できるように、活動をはじめました。

技術力のある人、情報収集力のある人、文章力のある人、イラストのうまい人などなど、老いも若きも女性も男性も、それぞれの力量で宝塚情報ボランティアネットワークの一員として活動しています。

市民にとって必要な情報の収集をはじめ、技術力UPの研修・インターネット用語の解説書づくり、インターネット入門・活用講座の企画・開催、ホームページの作成など研修や情報の収集・整理・発信といったことをしています。



図1

避難所map すみれが丘小学校



避難所に戻るときは地図中の避難所の絵をクリックしてください。



図 4

すみれが丘小学校



宝塚市すみれが丘1丁目5-1
JR、阪急宝塚駅より阪急バス
すみれが丘1丁目下車すぐ
収容可能人数 570人
避難場所 体育館

- 隣接施設 私立すみれ幼稚園
- 近隣施設 県立宝塚北高等学校
- 近隣公園 すみれが丘中央公園
- トイレ 障害者用 男女別
- 情報機器 インターネット テレビ 電話
地域防災無線
- 非常用設備 消火器 毛布(50枚) 暖房器具



体育館

玄関周りがスロープになっている。



図 5

市民とのネットワークづくり

避難所マップの情報は常に更新することが大切です。そのためには地域の情報をお互いにやり取りする関係作りが必要となります。我が手で守ろう、わがまち、わが家、と言われていますが、震災を経験した私達はその思いがとても強いです。一人一人の力も大切ですが、日頃のお付き合いの中から生まれた地域のネットワークこそ大きな力になります。すでに、消防本部等の行政とは連携を取ってきましたが、地域で活動している自治会関係者との連携が取れていない状態でした。2000年の夏、市内にある大学で自治会役員等を対象としたHPづくり講座が開かれました。この時ボランティアとして関わることで地域の方たちとは顔の見える関係作りがまず出来ました。その後、自治会単位のHPづくりの復習編を2回担当する事になり当グループと市民とのネットワークが広がりました。それは将来、台風や大雨による土砂災害などが起きた時、情報ボランティアとして地域単位で情報を発信できる人材の育成の第一歩でもありました。

クイズ防災くん

防災に強いまちづくりに大いに力を発揮して欲しいのは子どもたちです。将来的には情報提供者となる子どもたちにインターネットを使ったコミュニケーションを体験してもらおうと、私たちが作成した避難所マップを使った防災クイズを企画しました。対象は市内の小学校 5,6 年生としました。自分たちの避難所はどこにあるのかなど、楽しみながら防災意識を培ってもらう「避難所マップをよく見てみようクイズ」と、消防本部から出題していただいた「防災いろいろクイズ」を「1月17日」を頭において2000年の秋から実施しました。

ネット上でのクイズは初体験で質問項目や操作手順で苦勞することもありましたが無事に終了。今年度も引き続き質問項目をリニューアルしての実施予定です

おわりに

毎年実施される市の総合防災訓練には情報ボランティアとして参加しています。

そこではパソコンを使い避難してきた市民の名簿を避難者リストとして発信したり、訓練の様子をデジタルカメラで撮影した光景を市の防災システムを使って対策本部に送信したりもします。

災害が起こった場合、行政だけにたよるのではなく、日頃からよく知り合っている地域の人たちとのネットワークを活かした活動が重要になってきます。

このように日頃から危機意識をもち災害に強いまちづくりを目指すグループが増えることを願っています。

クイズ防災くん

このクイズは、宝塚市内の小学校5・6年生を対象に行われました。
平成13年(2001年)1月末で、締め切りました。

約30人の申し込みを頂きました。ありがとうございました。m(_ _)m
模範解答と正解率を、ここに載せておきます。参考になしてください。

来年にも、またクイズを予定しています。お楽しみに・・・

宝塚市避難所マップ

ご注意: 半角カタカナは使わないでください。

学校名	???	▼	小学校
学年	?年	組	?組
名前またはグループ名			
団体の場合の参加人数	人		

問題4・5・7・8は、それぞれの避難所のページで一度にチェックすると、何度も開けなくて良いから便利だよ。(´u`)

次のクイズに答えてください。	
避難所マップをよく見てみようクイズ	
問題1	避難所は、全部で何カ所でしょうか？ カ所 (避難所一覧で数えましょう。)
問題2	避難地は、全部で何カ所でしょうか？ カ所
問題3	「し」で始まる避難所はどこでしょうか？
問題4	収容可能人数が一番多い避難所はどこでしょうか？ヒント:ひとつじゃないよ!! <input type="checkbox"/> 東公民館 <input type="checkbox"/> 川西中学 <input type="checkbox"/> 第一小学校 <input type="checkbox"/> 小浜小学校
問題5	全部の避難所の収容可能人数を合計すると何人でしょう。 北部 人 西部 人 東部 人
問題6	避難所マップにのっていないものは次のどれでしょうか？ <input type="radio"/> 駅 <input type="radio"/> 病院 <input type="radio"/> 銀行 <input type="radio"/> 交番
問題7	近隣および隣接公園のある避難所は何カ所でしょうか？ カ所
問題8	宝塚市内には、震度7にも耐えられる貯水槽(ちよすいそう)が7カ所所有ります。その内、避難所には何カ所所有でしょうか？ カ所
問題9	9月1日現在、一番新しい避難所はどこでしょうか？
問題10	宝塚市避難所の中に川西市の学校があるのはなぜでしょうか？
問題11	次の3つの広域地図の中で、避難所が一番多いのはどれでしょうか？ <input type="radio"/> 安倉 <input type="radio"/> 逆瀬川・伊子志・亀井 <input type="radio"/> 宝塚・小浜・米谷

宝塚情報ボランティアネットワーク規約抜粋

1. 目的

本会は、阪神淡路大震災の情報の偏りを教訓とし、災害時にパソコンネットを利用し情報伝達のボランティア活動に取り組む。そのためには平素からパソコンネットを活用する必要がある、市民にとって必要な情報をパソコンを使って収集・整理・発信できるように会員間で研修を重ねて実践していく。同時に広く市民にパソコン操作、通信技術の啓発を行い、市民をまきこんだネットワークをネットワークを広げていくことを目的とする。

2. 活動内容

- (1) 公的情報をパソコンネットで提示する。
- (2) 地域情報の発信を通じ情報の偏りを少なくするとともに、交流をはかる。
- (3) 情報伝達手段の啓発と情報取り扱い方に関する学習をする。
- (4) 会の活動内容を広報しネットワークを広げる。
- (5) 新しい技術について会員相互で研修する。
- (6) その他、会の目的達成のために必要なこと。

避難所 MAP のアドレス

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/volunteer/hinanmap/chimei/ichiran.htm>

ねっとらぼのアドレス

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/volunteer/index/index.htm>